

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2591400060		
法人名	社会福祉法人 信楽福祉会		
事業所名	グループホーム笑楽(ぬくもり)		
所在地	滋賀県甲賀市信楽町牧字小屋カイト1159番地		
自己評価作成日	平成29年6月29日	評価結果市町村受理日	2017年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会		
所在地	〒525-0072 草津市笠山7丁目8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	2017/7/18		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニットを開放し利用者がその日の気分で行き来ができ、話をしたり過ごしたりされている。またデイサービスや特養にも行き来でき馴染みの方との交流も出来ている。デイサービスで遊んだり気分転換にも活用している。日常生活に於いても出来る限り意向に沿えるよう努めている。担当を決め月1~2回レクリエーションや外出計画を実行し利用者の方々に楽しんで頂いている。地域の方との連携も徐々に増し利用者単独の外出も行えるようになってきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の高台に位置し、豊かな自然に恵まれたのどかな環境の中にあり、ゆったりとした時間が流れている。開設後4年と、比較的新しいグループホームだが、職員のアアに対する想いは熱く、「みんな笑顔で楽しく地域の一員で一人一人のために」の理念のもと、日々利用者と向き合っている。利用者は、グループホームの2つのユニット間や、法人施設の敷地内を自由に移動することができ、様々な職員と関わることで見守りも充実している。また、地域の行事への外出や夏まつりなどのレクリエーション、小学生や保育園児との交流を通し、地元住民の方々と自然に関わるきっかけを積極的に作り、地域とのつながりが深まるよう努めている。運営推進会議を通して、地域の方からの要望にも応える努力をしており、それらの実践により、地域における福祉のランドマークとなりつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った実践が出来てきているが、一部達していない。	全職員が理念を共有し、実践につなげている。現状に満足することなく、さらに高い目標をっかけ、支援の質を高めるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事は積極的に参加している。日常的な交流は出来ていない。	自治振興会の納涼祭、信楽の火まつりや地元保育園の夏まつりへの参加など、レクリエーションの一貫として、地域の行事に参加している。今後は地域の交流スペースとなっているカフェへ行くことなどを、企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行うと共に昨年度から施設の一部を開放し地域の交流の場として利用できる案を進めている。	運営推進会議では、地域からの参加者も多く、積極的な意見交換をしている。地域住民からの意見や要望を、実践につなげる努力をしている。施設の一部を地域の交流の場として利用する案が会議で話し合われている。	地域との日常的な交流が深められるよう、地域の交流の場づくりに向けて、さらなる意見交換が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のみとなっているのが現状。	運営推進会議で、市の担当者が参加している。地域の交流の場づくりに向けて、市から協力と補助金が得られることになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束委員会が月1回開催され、当ホームの委員も参加し検討している。また定期的に当ホームの会議に於いても検討している。	日中は玄関を施錠せず、利用者は開放感あふれた法人施設の敷地内を自由に行き来することができる環境が整っている。また、職員は法人全体で行われている身体拘束委員会に参加し、身体拘束に関しての意識を高める努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修もあり学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修もあり学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって文章にて説明等を行っている。質問等あれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や家族が面会に来られた際、モニタリング時など要望等を聞き入れている。業務日誌に記載し、職員間で共有したり会議で検討することもある。	月1回のモニタリング結果を家族に渡し、利用者の様子を伝え要望を聞き出している。家族から出た要望で、職員の顔写真と名前の掲示をするなど、意見を運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で実施している。その他業務日誌も活用している。	月一回の定例会議は、管理者、ケアマネジャー、全職員が意見を出し、充実した会議となっている。業務日誌に記載された職員からの意見や提案も介護の場で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞き考慮している。個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の参加を積極的にしている。また、月1回の会議においても確認する事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲賀市内のグループホーム部会や滋賀県のグループホーム協議会に於いて交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会し要望等を確認し、入居環境を整え安心して過ごして頂けるようサービス計画より支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも面会し要望等を確認したうえに、現状難しい点もあるが不安や要望等を解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	タイムリーな支援が出来るよう、情報を職員で共有するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に信頼され安心できる存在であるよう心掛けて関わっているが、時々出来ない場合もある。昨年よりも徐々に良好な関係が構築できつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問は気兼ねなく出来る雰囲気は出来ている。ご本人との絆も上手く取り持てるよう日常の様子を話したりして関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば自宅周辺や施設内に入所されている馴染みの方に会ったり地域の方からの誘いにも会えるよう支援しているが一部の方であり、頻度が少なく増やしていきたい。	入所後も、「講」やカラオケの会など入所前に参加していた集まりに参加できるよう、送迎等でサポートしている。また、家族以外の馴染みの人との関係が継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席や外出時の座席などの配慮や全員が活動できる場の提供をしている。又利用者同士が気遣い声を掛け合える場面も見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中亡くなられる方が多い。また入院の為退所された方の病床訪問に行き本人、家族に接するように取り組んだ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望が頻著な時は鍵を閉めて出た事等を確認しドライブをして帰宅したり、電話を掛けたい時は出来る限り行っている。	利用者の帰宅願望に対して、利用者の思いだけでなく家族の思いも含めて、ありのままを受け止めている。訪問を制限せず、一人ひとりの意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に家族からの聞き取り、また入所後に本人の言葉の中から聞き取りフェイスシートに記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康状態のチェックを行っている。またいつもと違う状態を皆が申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催して話を聞いている。又担当職員より日常的な様子を月1回モニタリングをして介護計画が合っているか確認している。3か月に1回モニタリングを家族に郵送している。	カンファレンスにおいて、日常の様子をモニタリングして全職員で話し合い、介護計画をチームで検討、作成している。また、モニタリング結果を家族に伝え、家族からの意見をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間のケアプランを入力でき皆が共有できるソフトを使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の仕事や体調で受診、地域交流が難しい場合送迎等も代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大きな行事は声を掛けてもらい参加をしているが、個別にサロン等に参加できているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により訪問診療を受ける通院、専門医への定期通院を行っている。必要があれば、通院時に日常の特変や様子を伝えるようにしている。	夜間、休日対応の診療所の医師の往診があり、家族で受診付添が難しい場合も医療が適切に受けられる。また、希望があれば、以前からのかかりつけ医に受診することも可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	既存施設の看護科と医療連携をしている。朝夕の特変、体調不良の連絡、またかかりつけ医への連絡、緊急時の対応が24時間されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供シートを活用している。また病床訪問を行い入院時の様子を把握している。退院時は地域連携室と連携し継続した医療と介護を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをグループホームで行ったことはないが、入所時に事前書を記入してもらい重度化、終末期の事も理解してもらう機会としている。又カンファレンス時に確認、必要があれば終末期カンファレンスを行っている。	入所時や必要時に、重度化した場合や終末期の在り方についての話し合いを利用者や家族としている。看取りの経験がないので、希望があれば、グループホームで終末期を迎えることを一つの選択肢にできるよう継続的に職員の研修を計画している。	終末期の対応について未経験である職員の不安が少しでも軽減できるよう、継続的な研修と、看取り経験がある特養と連携して実践に向けた研修が開催されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行っている。また緊急時のマニュアルを表示、常に常に対応できるようにしているが定期的には訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大きな避難訓練を既存施設と年3回実施している。避難経路は掲示している。夜間の訓練は実施できていない。	夜間を想定した訓練を昼間に行うなど、施設全体での避難訓練に参加している。地元の消防署の協力もあり、はしご車で訓練を行う等、工夫されている。施設が高台となっており、水害の場合は、地域住民の避難所にもなっている。	避難訓練について、職員全体で振り返り、今後の対策について検討する機会を設けることが求められる。また、地域の避難所としての備蓄を設ける等、地域との話し合いが行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した対応を心掛けているが行き届いていない場合がある。	名前を呼ぶときは、基本は苗字だが、馴染みの呼び方で呼ぶこともある。利用者本人の立場で違和感のない言葉かけを行っているが、本人の状態により、大きな声での声掛けになることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張される方は出来る限り受け入れるよう努めている。それが難しい方は言葉かけをしているが、自己主張できる方が優先される場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心掛けているが、実際出来ていない場合がある。優先する利用者の偏りもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や外出時のおしゃれ等は出来ている。日常においても爪切り等気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から手分けし、メニューの説明を行っている。	食事の片付けなどに利用者が参加しやすい設計となっており、ハード面での工夫がある。また、「食べたい」という気持ちを尊重し、ラーメンやマクドナルドなども取り入れ、レクリエーションとして「食」を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けにより水分摂取の促しや、個々の状態や体調に合わせた食事形態等の提供をその都度考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方で毎食後は行えていない場合が多く、就寝前は職員の声掛けにより行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを表の使用で知り、トイレ誘導を行い排泄の失敗を軽減するよう努めている。	布パンツで極力過ごせるようケアをしており、ほとんどの利用者は布パンツで過ごしている。以前はリハビリパンツを使っていたが、現在は布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動の促しや看護師と相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に応じた入浴を実施しているが、数日入浴されない方に対し工夫し促している。	入浴は一人週2、3回、主に午後の時間帯で行われている。入浴剤をいれたり季節の香り湯にしたり、季節感、清涼感が感じられる入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間を設けたり就寝時間をご自分で決めて頂く事もある。また空調もご本人と相談したりしながら調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	軟膏は比較的 understanding 出来ているが、錠剤はすべて理解出来ているとは言えない。必要な場合その都度各利用者の薬成分表を参照できるようファイルに閉じすぐ確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での作業(洗濯物、食事準備等)と一緒にいたり、ご本人の意思の尊重をしているが、完全には出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員なしで地域の方と外出された方がおられた。(継続中)ほかに買い物や帰宅願望の方へ個々で外出したりしているが、職員が行けない場合もあり希望にすぐ添えられていない場合もある。	日用品やお菓子などの日常的な買い物で外出する際は、利用者も一緒に出掛けている。その際には、好きなものを自分で選んで買えるよう支援している。本人の希望があれば、地域の方との交流の際の送迎を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを個々に預かり管理し、買い物や外食時には持ち出し、中にはご自分で支払いをされる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきを出されている。帰宅願望がある場合は電話を掛ける事がある。携帯電話を持っておられる方もあり、ご自分から掛けたり家族から掛かってきた電話で話されたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚れた場合はすぐ処理をするよう心掛けている。刺激に関しては利用者主体でご自分で調整される方や依頼される方もおられる。	季節や気候が自然と感じられる大きな窓があり、開放感のあるリビングがある。ところどころに、小さな絵が自然体で飾られており、全体的に落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビとソファの設置をして、自由に利用者同士が座り話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との相談も含めたレイアウトを職員が行ったり、ご家族がされる方もおられる。又写真や作品を貼ったりしている。	家具や寝具等、使い慣れたものを持ち込み、使いやすい環境で過ごしている。壁に掲示したものも含め、思いのままにレイアウトして個性あふれる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々が出来るだけ安全で自立した個人の尊厳を考え、トイレ等に案内表の設置などを行っている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	43・44	排泄の自立支援、便秘の予防と対応 ・トイレの自動水洗を止めている。 排便が確認できない事があるため、止めるよう看護師より指示があった。利用者は羞恥心があり混乱を起こす方もあった。	自動水栓にすることで羞恥心を守る。排便を出来る限り把握出来る。	流す事に支援が必要な方や自立した方の対応に、もう一度話し合う必要がある。職員、医師や看護師等。又他のグループホームでの対応も参考にする。	3ヶ月
2	37・48・49	役割と楽しみごと。日中の過ごし方。 ・個人的な外出は偏っている。 ・日常的な事はされるが、テレビを観るか居眠りが多い。	活気ある雰囲気作り。平等にかつ今必要としている利用者に関われる。職員との連携、共有。	・個々の意欲を引き出せるよう見つける。 ・個人外出は各担当が行えるよう配慮する。 ・勤務形態や時間配分を考慮する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()